様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費 KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月 １５ 日現在

機関番号：２４５０６
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2016～2019
課題番号：１６Ｋ２１７１１

研究課題名（和文）水辺の習俗行事にかかわる文化的景観の保護に向けた空間的・社会的変容パターンの解明

研究課題名（英文）Elucidation of patterns of spatial and social changes toward the protection of cultural landscapes in traditional waterside customs

研究代表者
大平　和弘（Ohira, Kazuhiro）

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・講師

研究者番号：９０７１１１６９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、水辺で執り行われる習俗行事の文化的景観の実態を明らかとした。その結果、空間の公園的整備や周辺の港湾開発などの要因により、水辺の空間変容パターンがA空間保存型、B空間再生型、C空間再生移転型、D空間消失型の4つに分けられた。また、変容パターンごとに文化的景観の構造に大きく差異がみられ、景観の骨格や景観構成要素の変化が生じるなどの課題が明らかとなった。水辺の習俗行事における文化的景観保護のためには、空間を自然的な工法で隣接のオープンスペース等と一体的に整備して多機能化を図ること、その上で同空間をうまく活用した担い手育成を図ることなどが重要であると示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
我が国において直接的な保護施策を持たない習俗行事の文化的景観に関して、水辺の習俗行事を事例とした文化的景観を継承する上での課題やあり方が提示された。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the actual state of the cultural landscape of traditional customary events held on the waterfront. As a result, the pattern of spatial transformation on the waterside was divided into four types: A-conservative type, B-regenerative type, C-regenerative transfer type, and D-disappearing type, because of the development the park or the surrounding port.In addition, there were significant differences in the structure of the cultural landscape depending on the types, and the problems in inheriting the cultural landscape were clarified, such as changes in the foundation and landscape elements. It was suggested that the following points are important for protecting the cultural landscape of traditional waterside customs. The space will be naturally constructed and integrated with the adjoining open space for multi-functional use. And it is necessary to foster event leaders who utilize the space.

研究分野：ランドスケープ

キーワード：習俗行事　水辺空間　文化的景観　祭祀空間

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

近年、開発・整備による空間変容や、過疎化・少子高齢化による社会構造の変化に伴い、地域の祭りや風習などの習俗行事の姿が消失しつつある。伝統的な習俗行事は、地域の森・川・海などの自然地と不可分な関係にあるものも多く、習俗行事にかかわる景観や空間も一体的に保全する必要があると考えられる。

このような習俗行事にかかわる景観や空間の保護に関する国際的動向として、無形文化遺産保護条約（ユネスコ、2003）では、祭祀や芸能を行う上で不可欠な空間を「文化的空間」とし、保護の対象として明記している。しかしながら、我が国の文化財保護法に基づく「無形民俗文化財」の保護施策においては、景観や空間に関して直接的な保護施策を持たない。また、類似の文化財である「文化的景観」においても、習俗行事にかかわる景観は対象とされておらず、保護に向けた実態や課題を解明する必要がある。とくに、水辺で執り行われる習俗行事は、空間改変の観点、社会的構造変化の観点、既往知見が不十分である学術的観点より、水辺の習俗行事の文化的景観の保全に資する知見の集積が急務であると考えられる。

２．研究の目的

本研究では、空間改変や社会構造変化に伴う改変・消失が懸念される水辺で執り行われる習俗行事に着目し、その文化的景観の実態を明らかとした。また、過去から現在に至る景観や空間の変容パターンや社会構造の変化を探ることで、水辺の習俗行事の文化的景観を取り巻く空間的・社会的課題を解明し、文化的景観の保護施策拡充の一助とすることを目的とした。

３．研究の方法

本研究では、Step1～Step4 の段階に分けて、実態や課題を解明した。まず、Step1 において水辺の習俗行事を既往文献や国・県・市町村指定文化財一覧より水辺の習俗行事を抽出し、Step2 にて代表事例の現地調査から、習俗行事の存続状況と、文化的景観の成立要因となる景観構造や空間形態、自然環境等の実態について把握した。次に、Step3 ではヒアリングを通じて、水辺の習俗行事の景観や空間形態の変容、ならびに習俗行事の運営体制など、文化的景観を支える社会構造の変化を把握した。Step4 では、各事例を変容パターンごとに整理し、水辺の習俗行事の文化的景観を取り巻く現状と課題を明らかとした。

４．研究成果

（１）対象事例の抽出

兵庫県、大阪府を対象にした、国・県・市町村指定の無形民俗文化財の全数 133 件のうち、川や海などの水辺で執り行われる習俗行事は、わずか 6 件（4.5%）と極端に少ない結果となった。事例数を増やすため、瀬戸内文化圏に着目し、兵庫県、大阪府に加え、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県の無形民俗文化財に関する既往文献、および現地調査の結果、変容パターンを捉える対象として 9 事例を抽出した（表１）。

（２）空間の変容パターン

現地調査による習俗行事の空間利用の実態、ヒアリングによる習俗行事の空間変容の結果より、対象事例が空間の変容パターンとして、A 空間保存型、B 空間再生型、C 空間再生移転型、D 空間消失型の 4 つに分けることができた（表１）。

まず A 空間保存型は、同じ立地・土地利用にて継承されている習俗行事である。一連の神輿渡御や神事の中で、砂浜で執り行われる位置づけとして、海そのものや海水に意味を有するのではなく、陸域側のお旅所（オープンスペース）と一体となった砂浜、港と一体となった浜としての機能を有しており、場所性が優先された結果、空間利用が継承されているものと考えられる。こ

れは関連する民間信仰の祭祀空間[1]においても、森と公園的利用の一体化による保全策が示唆されており、同様の結果といえる。しかし、文化的景観上の課題として、景観を構成する骨格が継承されるものの、水辺空間の規模縮小、基盤を構成する要素の自然度の低下、護岸などの構成要素の追加や改編などの変化が生じている。

次に、B 空間再生型では、同じ立地・土地利用にて継承されているが、人工的な養浜、駐車場等の利用施設、行事開催時に観覧席にもなり得る護岸のステップ形状など、水辺の公園的整備により大きく空間の様相が変容したパターンである。そのため、行事も大規模となり、祝祭としての性格が強くなる傾向がある。安城寺の川狩りのケースでは、一時水質汚濁等の水辺環境の悪化により、禊行為が途絶えていたが、行事を執り行う専用の人工的な禊空間が川際に整備されたことにより行為も復活し、水辺の習俗行事の本質的意義を取り戻すことに成功している。しかしながら、いずれのケースにおいても、一部あるいは全面が人工基盤による改変がなされていることが、文化的景観上の課題である。

続いて、C 空間再生移転型は、海岸部の港湾整備により空間そのものが消失、あるいは港湾整備による潮の流れの変化により砂の堆積状況が変化したことにより、習俗行事の場所の変更が生じたパターンである。由良湊神社のケースでは、規模の小さな行事専用の砂浜が養浜されたが、本来砂浜が成立しない立地のため、砂の流出など維持管理上の課題を有した。文化的景観上の課題として、海と岬地形・島などへの眺望など景観を構成する骨格と関係性が変化したことが課題である。

最後に D 空間消失型は、護岸整備や海岸埋立により浜が消失し、同じ場所であるが異なる土地利用で習俗行事が展開されるパターンである。これは、浜へ降りることが習俗行事の本質的意義ではないため、またかつての村域で巡行する行事の形式が優先したためであると考えられた。そのため、茅渟神社のケースにおいてもお旅所の名称やそこでの行事の所作などの無形的要素は変わっていない。しかしながら、水辺と習俗行事の関係性が物理的に消失するとともに、陸から水面方向の視線の共通性がなくなり、あらゆる方向より観覧する行為が発生するなど、文化的景観上の課題が極めて大きいと評価される。

表１　空間の変容パターンと文化的景観の継承性

変容パターン	習俗行事				文化的景観の継承性			
	行事名	所在地	水辺タイプ	行事タイプ	土地利用	立地・骨格	基盤	構成要素
A. 空間保存型	波多神社秋祭り	大阪府阪南市	砂浜	神輿渡御	○	○	○	△
	おしゃたか舟神事	兵庫県明石市	港･砂浜	神事	○	○	△	△
B. 空間再生型	阿万亀岡八幡神社春祭り	兵庫県南あわじ市	砂浜	神輿渡御	○	○	△	△
	俄まつり	山口県柳井市	砂浜	神輿渡御	○	○	△	△
	安城寺の川狩り	愛媛県松山市	川	神輿渡御	○	△	×	△
C. 空間再生移転型	由良湊神社夏越祓	兵庫県洲本市	砂浜	神輿渡御	○	×	○	△
	安仁神社海中禊	岡山県岡山市	砂浜	禊	○	×	○	△
D. 空間消失型	八幡神社走り神輿	岡山県笠岡市	転石浜	神輿渡御	×	△	×	△
	茅渟神社秋祭り	大阪府泉南市	転石浜	神輿渡御	×	×	×	×

（３）社会構造の実態

文化的景観を支える社会構造の変化については、上記変容パターンごとに顕著な差異はみられなかった。共通して保存会等の団体が機能し、青年団等世代の若返りが図られているほか、担い手の不足から地元だけでなく、広域的に参加の声かけがなされている。また、この社会構造変

化は、習俗行事自体の存続において、空間の消失や改変よりも大きな課題として認識されていた。このような課題に対し、安養寺の川狩りのケースでは、習俗行事のための空間整備とともに、同空間において行事を模した授業が開講されるなど、学校教育との連携が図られていた。これは、習俗行事の継承意識だけでなく、水辺の文化的景観を支える空間の維持管理や環境保全への意識醸成にもつながる好例と考えられる。

（4）本研究成果と今後の課題

以上のように、習俗行事における水辺の位置づけや隣接地の空間の性質、空間の公園的整備、周辺の港湾開発などの要因により水辺の空間変容のパターンが異なること、またパターンごとに文化的景観の構造に大きく差異がみられ、空間保存型であっても景観構成要素の変化など文化的景観の継承課題が明らかとなった。水辺の習俗行事における文化的景観保護のためには、習俗行事を執り行う空間を自然的な工法で隣接のオープンスペース等と一体的に広場的利用を図るなど、多機能な整備を図ること、その上で同空間をうまく活用した担い手育成を図ることなどが重要であると考えられる。

本研究の知見を個別の習俗行事における文化的景観の保護や、文化財行政における文化的景観の保護施策拡充へつなげていくためには、習俗行事の空間が地域の日常生活や習俗行事以外の利用的側面など、地域においてどのようなつながりや機能を有しているのか解明すること、変化を前提とした「生きている文化財」としての文化的景観の保全のためには、各事例において現在まで継承されている景観の本質的価値を解明することなどが今後の課題となり得ると考えられる。

＜引用文献＞

1)上田萌子・大平和弘・押田佳子・浦出俊和・上甫木昭春、鹿児島県指宿市有形民俗文化財に指定されたモイドンの保全に関する現状と課題、ランドスケープ研究、81巻5号、2018、565-570

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 上田萌子・大平和弘・押田佳子・浦出俊和・上甫木昭春	４．巻 79(5)
２．論文標題 鹿児島県錦江町周辺における「モイドン」の立地と存続状況に関する研究	５．発行年 2016年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 659-664
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.79.659	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 押田佳子・松尾あずさ・浦出俊和・上田萌子・大平和弘・上甫木昭春	４．巻 81(5)
２．論文標題 奄美大島におけるノロ祭祀空間の継承状況に関する研究	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 571-576
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.81.571	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 上田萌子・大平和弘・押田佳子・浦出俊和・上甫木昭春	４．巻 81(5)
２．論文標題 鹿児島県指宿市有形民俗文化財に指定されたモイドンの保全に関する現状と課題	５．発行年 2018年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 565-570
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.81.565	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

１．著者名 上田萌子・浦出俊和・大平和弘・押田佳子・上甫木昭春	４．巻 82(5)
２．論文標題 鹿児島県指宿市におけるモイドン等に関わる伝統行事の存続状況と継承課題の把握	５．発行年 2019年
３．雑誌名 ランドスケープ研究	６．最初と最後の頁 567-572
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5632/jila.82.567	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 大平和弘
2．発表標題 祭りにかかわる文化的空間から捉えた地域の拠り所性とコミュニティ像
3．学会等名 日本都市計画学会知の冒険プロジェクト
4．発表年 2020年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

大平和弘（2019）文化資源とコミュニティ、伝統的な祭祀空間における緑研究会、指宿市考古博物館時遊館Coccoはしむれ

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考